

委員意見の大まかな分類

目指す方向性	委員意見の大まかな分類	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回
方向性 1 四季折々のみどりが彩るオアシス空間	【環境・景観の活用】	○			○
	【園内樹木の整理】	○			○
	【アクセシビリティと利便機能】	○	○		○
方向性 2 伝統と風格に相応しい設えやおもてなし	【既存施設の改善】	○	○		○
	【未利用地の活用】				○
	【歴史の継承】	○			○
	【新たな機能の導入・再配置】	○	○		○
方向性 3 市民や観光客が集う交流・賑わいの場	【市民の利用促進】	○	○	○	○
方向性 4 あふれる魅力を効果的に伝える情報発信	【ブランディングと新たなコンテンツの提供】	○		○	
	【中島公園の魅力と PR】	○	○		○
	【マップの活用】			○	
	【自然観察の場】	○	○		
方向性 5 新しい時代の管理運営	【新しいマネジメント体制の構築】	○	○	○	○
	【園内施設の連携】	○	○	○	
	【周辺との連携（マネジメント体制）】			○	
	【周辺との連携（公園利用の制限）】			○	
	【周辺との連携（MICE 施設）】		○	○	
	【周辺との連携（エリアマネジメント）】		○	○	
	【市民参加・ボランティア】		○	○	

方向性 1：四季折々のみどりが彩るオアシス空間

【環境・景観の活用】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>(第 1 回) 今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・札幌市民が大切にしている、誇りに思っている公園だからこそ、それをどう楽しんでもらうかという視点で経営戦略を作っていた方がよい。 ・昔札幌市内に多く流れていた川の痕跡がほとんどなくなってしまった中で、まちの中を流れる鴨々川が存在しているというのは非常に重要な景観的ポイント。 ・みどり、芸術文化施設は充実しており、季節ごとの景観も素晴らしい。景観の良い場所に人が集まるので景観は大事にしていきたい。 ・中島公園からの藻岩山の景観の維持をしっかりと行うべき。公園内だけでなく、今の建築基準法や都市計画で守れるのか、その担保が必要。 ・長岡安平の設計図はかなり継承されており、それは大きな財産。課題もあるが、市民に愛されることを目標に地道にできることを話し合いたい。 <u>(第 4 回) 現場視察を踏まえて</u> ・植栽の密度が高い印象。防犯上も、必要な剪定は実施していく必要がある。 ・大きな木が多く、暗い。光の入るような整備をして、子どもの遊び場としても整備していったらどうか。 ・公園の多様性を感じた。ここまでいろいろな場がある公園はなく、魅力となっている。緑の環境としての多様性、都市公園としての景観や歴史が残っている点は貴重である。札幌のまちなかにあって、古い痕跡が残っていることはほとんどないため、かなり貴重である。改めて、大通公園とは都市とつながっているという点で全く違う。パークホテルも水や景観という連続性でつながっている。周辺の街並みが位置付けられている。	<u>(第 1 回) 今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・魅力的なスポットはあるが、込み入った植栽などが立ちよりにくい雰囲気となり、利用者の集まる場・休息の場に偏りがある ・散策路の利用が少ない、わかりづらい ・みどりの季節ごとの美しさが伝わるライトアップがされていない

【園内樹木の整理】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>(第 1 回) 今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・みどりについては、多くの木を植えた経緯があるが、当然間引きをしないといけないわけで、思い切ってやった方がよいと思う。 <u>(第 4 回) 現場視察を踏まえて</u> ・大きな木がさらに鬱蒼としていて何とかしなければならないと感じた。 ・一部で植栽の密度が高い印象だった。防犯上も、必要な剪定は実施していく必要がある。	<u>(第 1 回) 今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・魅力的なスポットはあるが、込み入った植栽などが立ちよりにくい雰囲気となり、利用者の集まる場・休息の場に偏りがある ・樹木の過密化・大径化によって見通しが悪い <u>(第 2 回) 新たな機能により魅力を向上する</u> ・樹木が混み合い、状態が悪い

【アクセシビリティと利便機能】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>（第1回）今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・各施設へのアクセシビリティは考えた方がよい。色々な施設が入っているが、公園には入れるのに施設は使えないことがある。トイレ、飲食、立ち寄り、周辺施設等、その管理状況を一度整理すべき。公園で実際にどのような過ごし方ができるのかに影響する。全体的には、不確定な要素もあるが、ポテンシャルは十分高いので何かを大きく変えるのではなく、魅力をもっと引き出せるような工夫が必要という議論だった。 <u>（第2回）新たな機能により魅力を向上する</u> ・もう少しメインストリートがわかるように整備した方が市民は利用しやすい。市民に寄り添った身近な文化を豊かにするのも大事。女性トイレの利用が少ないのも大きな問題。利用しづらいということなので、考慮していくべき。 ・入り組んだ形の散策路は景観を大切にしてきた結果だが、もう少しメインストリートがわかるように整備した方が市民は利用しやすい。 <u>（第4回）現場視察を踏まえて</u> ・公園の多様性を感じた。ここまでいろいろな場がある公園はなく、魅力となっている。緑の環境としての多様性、都市公園としての景観や歴史が残っている点は貴重である。札幌のまちなかにあって、古い痕跡が残っていることはほとんどないため、かなり貴重である。改めて、大通公園とは都市とつながっているという点で全く違う。パークホテルも水や景観という連続性でつながっている。周辺の街並みが位置付けられている。現場見学会で配られたルートは非常に魅力あふれるルートと感じており、市民に中島公園の魅力を発信するためにも、ガイドの育成も非常に重要と考える。1時間歩ける公園の観光資源として非常に魅力を感じる。鴨々川は、河川としてだけでなく公園と一体的に管理するともっと色々なことができるかもしれない。 ・休憩場所がもっとあると良い。	<u>（第1回）今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・魅力的なスポットはあるが、込み入った植栽などが立ちよりにくい雰囲気となり、利用者の集まる場・休息の場に偏りがある ・散策路の利用が少ない、わかりづらい ・ベンチの配置・水飲み台やテーブルの不足

方向性2：伝統と風格に相応しい設えやおもてなし

【既存施設の改善】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>（第1回）今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・北入口広場にパークセンターを置くべき。管理事務所はあるが、その存在は知られていない。案内機能を強化すれば園内の状況はわかりやすくなる。 ・体育センターなどの施設が公園におしりを向けているのは改善の余地がある。大きな方針転換は個人的には反対。 ・施設や関係機関の意見も検討会に共有してもらえると議論が活性化する。 ・トイレ、飲食、立ち寄り、周辺施設等、その管理状況を一度整理すべき。 ・スポーツという観点はないのかなと思う。アリーナのような体育センターを復活させることで、ランドマークとなり中島公園の活性化につながるのでは。	<u>（第2回）新たな機能により魅力を向上する</u> ・利用者のニーズに応える機能の不足 ・利用しづらい飲食等の施設

・南9条のところがやっぱりボトルネックになっているというか、そこにパークホテルのところで MICE の整備を行うとなると一番市街地と言うか、駅、繁華街の方から入っていくところの玄関口というのをどういう風に整備していくのか。 <u>(第2回) 新たな機能により魅力を向上する</u> ・形態は池泉回遊式公園だが、豊平館や Kitara から池が見えないなど、池を感じさせる視点場としての装置が少なく、案内なしでは気が付かない。池を重要なデザイン要素として位置づけた上でどう進めていくか。公園のコンセプトを利用者に分かりやすく伝えるためにも空間デザインの議論も必要。現状の活かしてない魅力を丁寧に見ていく必要がある。 <u>(第4回) 現場視察を踏まえて</u> ・中島公園駅のところが入り口として認識していたが、バス停の中島公園入口が東側にあり、色々な入口があって地域の方からすると色々な使われ方をしている。一方で、まちの顔となる公園としては入口の広場が寂しい印象である。案内表示もなく自転車置き場で残念な空間になっている。公園の管理事務所に奥にあり、毎年学生を連れて見学に行くが、そのためにパンフレットを頂きに幌平橋に一度行く必要がある。管理事務所に人がいるだけで、受付や情報提供する場になっていない。平成に園路を整備しており、ユニバーサルデザインを導入して車いすの移動等整備しているが、老朽化して不具合が起きたり、車いすに配慮できていなかったりしており、池にある手すりの高さが車いすに乗った方の目線とぶつかり、池の景観が見えないといった指摘もあり、魅力アップとしてハード整備はまだ手直しが必要な印象がある。特に入り口部分の整備は必要と感じる。 ・建物の向きが、公園の方を向いていない。全体の配置計画が不十分だと感じた。施設の更新の時期に合わせて、施設の配置計画や指針を作り、合わせて設置しても良いのではないかな。	
--	--

【未利用地の活用】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>(第4回) 現場視察を踏まえて</u> ・未利用地がたくさんあって、子どもの遊び場が少なく、施設はあるが、サービスが足りないという印象がある。 ・歴史的経緯含めて、多様な用途があり、利用者も多様である。また、耕作放棄地みたいな場所があったり、入り口が使われていなかったり、都市側のニーズもあり、検討し直す必要がある。中島公園がもつ特性を整理して、コンセプトメイキングしていくことが必要と感じる。	

【歴史の継承】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>(第1回) 今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・長岡安平さんの設計図はかなり継承されており、それは大きな財産。課題もあるが、市民に愛されることを目標に地道にできることを話したい。 <u>(第4回) 現場視察を踏まえて</u> ・歴史を振り返ると公園が大通公園と円山公園と中島公園しかなかった中で、中島公園が博覧会の場となっていたり、跡地利	

用で色々なことを進めてきた。中島公園はオープンスペースの魅力を発揮させて、今ある施設の管理状態をもう少し整備する方向性が必要ではないかと思ってる。周辺の環境として、鴨々川はペーブメントがインターロッキングになっていて、中島橋が昔の軸だと思うが木の橋が架かっていて、そのような歴史を継承しているのがこの公園の魅力であって、それを活かせる整備が必要だと思っている。 ・入口の話で、開拓使では中心は北側であるが、地区は中島橋で元々は接続していた。中島公園は山鼻村とも共有していた経緯があり、都心部と中島公園との関係のみならず、札幌の都市形成の面白いところは都心部と周りの開拓の村が一緒に発展してきたことにある。都心部が外に大きく伸びることができずに3つの公園しかなかったことにあると感じている。そのような観点から入口は都心部に一つだけであるということは、必ずしもこの公園のあるべき姿ではないように感じた。	
---	--

【新たな機能の導入・再配置】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>(第1回) 今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・体育センター、駐車場、彌彦神社、公園管理事務所のあたりは普段は人がいない。博物館が来るような報道もあったが、施設側が落ち着かないと方向性が決まらないというものもあると思う。 <u>(第2回) 新たな機能により魅力を向上する</u> ・飲食は新たな機能。また、公園北側は芸術文化機能だが、南側はスポーツを新機能として再定義し、施設整備や大会の誘致を行うのも良い。バスケットのレバンガのアリーナができれば、コンサートでも使えるし幌平橋からすすきの駅へ人の流れができる。人が集まれば指定管理者にも収益がもたらされるし、人を呼ぶ機能は P-PFI の成立条件でもある。核となる施設が必要。 ・市の体育施設配置計画からすると、中島公園では体育施設の位置づけが後退している現状。大通公園のように、ここだけでなく周辺も含めて考えるべき。 ・みどり、芸術、文化がコンセプトになっているが、統一されたコンセプトは何か。これまでに市内でも新しいものを取り込む場所であった。他方で公園としての在り方から話されるストーリーを感じない。 ・新たな機能の誘致を検討するなら、エリア全体での都市公園や類似施設の配置も考慮に入れるべき。 <u>(第4回) 現場視察を踏まえて</u> ・個人的にはアリーナが欲しいと感じている。市民のための公園であってほしい。外国人を意識するよりも市民が普段使っている風景をイメージすることで、結果的に外国人も来訪するのではないか。 ・パーク PFI で景観や感じのよいレストランができて SNS 等で拡散されて、更にこれまで来られなかった方も来るようになったような、好循環を生んでいる事例もあるので、民間連携について検討されるといいと思う。公園の楽しみ方は時代とともに変わってきているように思っており、昔は広場があればよかったが、例えば遊具ゾーンの隣にカフェがあって、子どもを遊ばせる隣で親がカフェを楽しむようなライフスタイルが公園にあってもいいし、レストランで風景を楽しむなど、市民がどのようなライフスタイルの中で公園を利用したいかも踏まえて活用したらどうか。子どもは遊び方が無限大と考えており、遊具にこだわらず、プレイパークや子どもが遊べる自然の活用など、エリアを見渡して遊び場を検討してもよいのではないか。	<u>(第2回) 新たな機能により魅力を向上する</u> ・利用者のニーズに応える機能の不足 ・利用しづらい飲食等の施設

方向性 3：市民や観光客が集う交流・賑わいの場

【市民の利用促進】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>（第 1 回）今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・札幌市民が大切にしている、誇りに思っている公園だからこそ、それをどう楽しんでもらうかという視点で経営戦略を作っていた方がよい。 ・観光客よりは市民の人が親しみ、日常的に足を運べる場所という位置づけで考えたい。中島公園の綺麗さを知っている人は間違いなく足を運んでいるが、一部の人になっているという問題意識は持っている。目的の施設に行くのは日常使いではないので、もっと市民が日常的に足を運ぶ何かが必要。芸術関係の専門家が何か提供するのではなく市民が自分たちで活動し、発信していくような場となるような支援を考えてみてはどうか。中央図書館は大変アクセスが悪く、もう少し都心に近い場所に整備する必要があると思う。そういう意味では、中島公園は可能性としてあるのかも。幅広い年代の利用を考えると、児童会館・こぐま座は小学生までは親しめると思うが、中高生が親しめるような場所がない。ヤングアダルト世代が親しめるような場があっても良い。 <u>（第 2 回）新たな機能により魅力を向上する</u> ・前回議論で、市民の親しみを大事にする方向性になったと思っている。市民に寄り添った身近な文化を豊かにするのも大事。その中に観光客も一緒に入ってくるというイメージはいかがか。市民の文化活動活性化の意味では、例えば生涯学習という視点で資格勉強に活用する等、新たな視点もある。子供や若者向けの機能は、若者支援総合センターや若者活動センターの利用者から意見をもらうのも大事。 <u>（第 3 回）周辺エリアも含めて活性化させる</u> ・地域住民にとって歴史文化は毎日見たいものではなく、どちらかというとホテルの宿泊客にその場所の良さを見せたいという側面があると思う。もう少し日常的に市民の方々が使用できる施設として、スポーツ施設など体を動かすことをテーマに中島公園は考えていただきたい。 ・中島公園に関しては市民が利用しやすい公園を大きな柱に置いているということで間違いないか。その場合、こういう議論をするときに政治には男性が多くなりがちなので、多様な人から声を出してもらうことが大事。老若男女、外国人や障がいのある方等からしっかり声を出してもらえるような組織作りが大事。 ・すすきのの事業者や勤務者は、中島公園が大事な対象になっているのではないか。もし健康増進という意味でも市民に対する魅力を向上していくのであれば、すすきの勤務者の健康増進も考えられる。時間の面での配慮も必要。観光客向けに夜市をやるのも魅力的だが、住民にとっては迷惑かも。 <u>（第 4 回）現場視察を踏まえて</u> ・子どもは遊び方が無限大と考えており、遊具にこだわらず、プレイパークや子どもが遊べる自然の活用など、エリアを見渡して遊び場を検討してもよいのではないか。	<u>（第 2 回）新たな機能により魅力を向上する</u> ・若者、冬、来街者の利用者が少なく、滞在時間も短い傾向にある ・長時間の滞在を楽しめるような機能が不足している ・児童会館・こぐま座・遊具・自然といった恵まれた条件を活かした取組が不足している ・イベント以外に若者が訪れたいくなる機能は特に考えられていない ・冬の公園を日常的に利用するための施設や取組の不足

方向性 4：あふれる魅力を効果的に伝える情報発信

【ブランディングと新たなコンテンツの提供】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>（第 1 回）今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・ the 中島公園はどこか。一つ目玉になるものを作り、そこを集中的に PR してそこから回遊してもらうのも、旅行者向けには重要。 ・ 公園が持つブランド力をどう上げていくのかという戦略が重要。一番メインの部分を、なにをしたらいいのか。 <u>（第 3 回）周辺エリアも含めて活性化させる</u> ・ ブランドやそもそもの価値、価値を超えるような意義などを見つけ出していく必要がある。それだけでも足りず、組織や資源などを知ってもらうための体験コンテンツも重要である。そのための資源調査や、取組を持続的に行う方法も模索する必要がある。ここで、繋げたら良いというアイデアがあるが、誰が繋げていくのか、時代の流れに合わせて柔軟に対応していけるコンテンツや、ターゲットに合わせたものをどう作っていくか。さらに今は、体験プログラムをユーザーに使ってもらうには OTA の時代。そのためには旅行会社が持っている特殊な技術が必要。そこに載ることで様々なユーザーに届けることができる。嗜好性や資金調達にも繋げていける。こういうことができたなら良いとは思いますが、それをどう実現するか、どう持続的に続けていくのかという仕組みづくりが肝心。	<u>（第1回）今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・ 公園の成り立ちや変遷を踏まえた平成の再整備のコンセプトは、現在でも活かされており、植栽・水景・景観が織りなす季節ごとの魅力となっている一方で、その魅力のすべてを伝えきれておらず、認知されていない ・ 来街者への案内やサービスの不足 <u>（第 3 回）周辺エリアも含めて活性化させる</u> ・ 周辺事業者が公園の魅力を積極的に発信している事例は少なく、公園が近接していることをメリットとした集客方法を選択していない。

【中島公園の魅力と PR】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>（第 1 回）今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・ 目的地としてどうマネジメントしていくかが課題。現状で「中島公園に行こう」という発想で訪れている人がどのくらいいるか。実際は、むしろ各施設を目的に訪れ、たまたまそこが公園であったというサブ的な存在であることが多いように思う。 ・ 情報発信にはターゲットの設定が大事。中島公園は市民利用のニーズが高いと思っていたが、資料では市民や観光客をターゲットとして挙げている。コロナ禍が明けインバウンドも増えている中で、昔の水景を遺している鴨々川等、中島公園ならではのストーリーを世界に向けて発信するの一つ。 ・ インバウンドの人たちへの発信も重要。 ・ ライブカメラを用いてパークホテルの最上階からの景色を発信するのも良い。 ・ 札幌には自然系の博物館が無く、市民への生物多様性関係の情報発信が弱い。西岡公園や円山公園では、パークセンターと地域の団体が協力して自然の情報を集め、発信している。 <u>（第 2 回）新たな機能により魅力を向上する</u> ・ 指定管理者と一緒に中島公園見どころ探訪ツアーをやっていた。参加者は札幌市民だが、札幌で生まれ育った人は全体の 2 割程度で、中島公園のことをほとんど知らない人が多い。公園周辺にはホテルが増加し、散歩に来る宿泊者に魅力を知ってもらうために三十三選のパンフレットを作ったという経緯がある。今ある魅力をもっと知ってもらうべき。	<u>（第1回）今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・ 公園の成り立ちや変遷を踏まえた平成の再整備のコンセプトは、現在でも活かされており、植栽・水景・景観が織りなす季節ごとの魅力となっている一方で、その魅力のすべてを伝えきれておらず、認知されていない <u>（第 3 回）周辺エリアも含めて活性化させる</u> ・ 周辺事業者が公園の魅力を積極的に発信している事例は少なく、公園が近接していることをメリットとした集客方法を選択していない。 ・ 様々な魅力の回遊資源はあるが、回遊性を促す仕組みは、各種マップが作成されている程度。

<u>（第４回）現場視察を踏まえて</u> ・中島公園は広く、色々な顔をもっており、それぞれの使い方がされていることが特徴。周辺にホテルが増え、観光客が散策をする場所になっており、札幌の良さを伝える場所にならないかと考えている。もっと魅力をアピールする方法があるはずである。パークセンターも全くなく、情報発信をしていかないとまったくない。 ・現場見学会で配られたルートは非常に魅力あふれるルートと感じており、市民に中島公園の魅力を発信するためにも、ガイドの育成も非常に重要と考える。１時間歩ける公園の観光資源として非常に魅力を感じる。鴨々川は、河川としてだけでなく公園と一体的に管理するともっと色々なことができるかもしれない。	
---	--

【マップの活用】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>（第３回）周辺エリアも含めて活性化させる</u> ・なぜ中島公園では回遊性の地図がたくさん作られるのか。他の公園でこんなにある印象はない。マップを作る人たちが中島公園を舞台にしたいくなるのか、それとも市民にニーズがあるからか。本当に使われているのかも気になる。 ・中央区を歩くマップでは中島公園を通るルートは多く、公園を歩いて魅力的と感じている方が多いのは間違いないと思う。 ・サイクリングやウォーキングをしたい人たちにとっては魅力的な場所ということ。ここが起点やゴールになる場所として意義を感じているから使っているが、逆にこの MAP がなければその魅力は伝わっていないのかもしれない。	<u>（第1回）今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・来街者への案内やサービスの不足 <u>（第３回）周辺エリアも含めて活性化させる</u> ・周辺事業者が公園の魅力を積極的に発信している事例は少なく、公園が近接していることをメリットとした集客方法を選択していない。 ・中島公園とその周辺を散策するマップが作成されているが、公園からの情報発信はない。 ・様々な魅力の回遊資源はあるが、回遊性を促す仕組みは、各種マップが作成されている程度。

【自然観察の場】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>（第１回）今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・中島公園も野鳥観察、写真撮影で訪れる人が多くポテンシャルは大きいので、そういう可能性を探るべき場所である。 <u>（第２回）新たな機能により魅力を向上する</u> ・野生動物が多い場所なので、自然観察の場所としての魅力を発掘し、伸ばしていく取組も大事。	

方向性 5：新しい時代の管理運営

【新しいマネジメント体制の構築】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>（第 1 回）今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・公園の面白さは、予測していなかったものに出会うかどうかであり、それには全体のマネジメント組織が必要。市街地側から入る玄関口をどうしていくか。民間事業者の敷地も一体に捉えたマスタープランのようなものが必要。 <u>（第 2 回）新たな機能により魅力を向上する</u> ・大通公園よりも中島公園で Park-PFI の活用が考えられる。ちゃんとしたものを売れば観光客も買うはず。中島公園は収益を得られる公園なので、税金よりも民間で施設を更新する方が良いのでは。 ・P-PFI の第一候補は中島公園。特に若者の居場所がないのは明確で、100 年前のライオン食堂のような飲食店をつくれれば人気になるのは間違いない。しかし指定管理と P-PFI の両立は困難。他都市でもすべて商売優先で公園全体が使われている悲惨な状況を見て来たので、ここでも難しいのではと思ってしまう。指定管理者ではない特殊な枠組みの組織を作る必要がある。 ・公園全体を管理する大枠の中で、一部 P-PFI での施設整備を行う方法は、既に他公園でも採られているので成立するのは。中島公園は昔から流行りのものが置かれる場所。今であれば若者が e スポーツをできる施設など、時代が一番求めるものをこの場所で担うべき。 ・リーダーシップを発揮して全体を統括する組織が必要だが、中島公園の協議会は機能していない現状。札幌市が一定程度のリーダーシップを発揮することも必要。 ・指定管理で何をやって欲しいのかを再度検討すべき。現状では自主事業をやる必要はなく、言われた限りやれば良い状態。 ・まだ決まっていない部分ではあるが、一つの議論として民間資本をどのように取り組んでいくかは大きな命題。一方で公園管理者は自主事業で様々な展開をしていく部分がある。民間に任せる部分と指定管理者が進める部分とバランスを取っていく必要がある。 ・新たな民間セクターが指定管理とのコンソーシアム的な統一をとる、そこまでいなくても協議会的な連携を図るなどは考えられる。 ・各施設の事業と外側の公園利用を連動させるためのマネジメント体制を作れるかがポイント。 ・理想は一つのマネジメント主体が全施設を管理し、採算をとっていくこと。今の体制のまま横の繋がりだけ作っても上手くいかない。現状の市役所のセクショナリズムや制度から考えると、施設を管理しつつ公園まで活動を広げるのは難しい現状。 ・公園管理者の収益を振り分けるシステムも考えるべき。文化財のメンテナンスに充てるなど、施設管理費用を捻出していないと公園資産の価値も落ちる。全体のお金のマネジメントを考えながら管理運営していくには、施設と公園の一体化がベースになる。 ・公道や神社、河川等がオーバーラップしている公園。緑地、オープンスペースだけでなく、広い視点での管理が必要。さらにそれを収益とどう絡めるか。お金の出どころをローカルルールとして決めないと、公園管理者は委託料の範囲内のみの管理になってしまい、施設との連携はできないまま。	<u>（第1回）今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・各施設がバリエーション豊かな活動をおこなっているが、連携しての事業は少ない ・目的以外の施設を訪れるきっかけとなる事業が少ない ・連携できる事業アイデアはあるものの、実施することが出来ていない ・中島公園地域コミュニティ推進協議会が十分に機能を発揮していない <u>（第 3 回）周辺エリアも含めて活性化させる</u> ・公園と周辺事業者との関係は情報共有程度であり、関わりが希薄である。 ・周辺の事情を考慮した魅力の提供や連携事業が少ない。 ・公園と周辺事業者が活かし活かされる関係となっていない。

<u>(第3回) 周辺エリアも含めて活性化させる</u> ・取組の話以前にマネジメント組織が必要。施設自体は複数あっても、完全に一つの目標を持った組織が必要。滝野すずらん丘陵公園の市場化テストを始めるときに設計に立ち会ったが、国営公園では数十項目について基準のすべてをクリアする必要がある。例えば季節ごとの花の数、入場者数、レストランの売り上げ、施設の入場者数等、その他に自主事業も行う。市場化テストをやる組織が提案したものに、徹底的に毎年チェックし、それが不足している部分に対して課題を打つ。一つの組織で植栽管理から客の誘致等まで行っているが、それを考えると、中島公園は異なる指定管理者がいて、各施設の人たちはその施設のことでしか考える必要がない。もし MICE が来たときはどう関係づけるか。マネジメント組織の改編、一つの目標を定めて、指定管理を管理する指定管理が必要。そういうやり方をつくるのがまず重要で取組などはそのあとになる。 ・中島公園の現状を見ると1つ1つが単独管理であり、それを連動させ、束ねるような状態を作り上げていく必要がある。そこを議論のポイントとしてフォーカスしていくのが良いのでは。恩賜公園はレベルが違うが、開拓使のつくったものを市民要望でいただいて公園を整備したという経緯で、第三者からいただいた土地を使って公園化したという部分では似ている。市民の財産をどうやって持続可能にしていくか、一緒になって考える組織が必要。 ・中島公園の魅力アッププランの中核は、パークマネジメント体制の作り方。公園と公園内に立地する複数の施設が独立している状態を改めないといけない。武蔵野プレイスのように所管は違っても一つの指定管理者に発注するということが理想形の一つ。 <u>(第4回) 現場視察を踏まえて</u> ・中島公園はパーク PFI のポテンシャルが高いと感じていた。	
---	--

【園内施設の連携】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>(第1回) 今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・公園と施設を一体的に運営していく必要がある。施設間の連携には、全体の施設にも絡みつつ公園にも絡むような運営主体が必要。情報交換だけではなく、公園一丸となってイベントを立て続けに開催していくような主体になる必要がある。 ・ポケモン GO のイベントは良かった。世界中から人が集まり、情報発信できるようなイベントの誘致がもっとできれば良い。 <u>(第2回) 新たな機能により魅力を向上する</u> ・指定管理者が複数いて、相乗的に独特な魅力を出している空間。指定管理者間で連携し、年間イベントとして情報を集約して一元的に発信すると、市民の回遊性は高まる。 ・公共施設が多く立地し、各施設がバラバラな機能を持っている現状。公園一帯として考えるには、公園全体の管理者が施設と連携しながら管理する必要がある。 <u>(第3回) 周辺エリアも含めて活性化させる</u> ・横の連携をどう求めていくか。その時にリーダーは誰か。	<u>(第1回) 今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・各施設がバリエーション豊かな活動をおこなっているが、連携しての事業は少ない ・目的以外の施設を訪れるきっかけとなる事業が少ない ・連携できる事業アイデアはあるものの、実施することが出来ていない ・中島公園地域コミュニティ推進協議会が十分に機能を発揮していない <u>(第3回) 周辺エリアも含めて活性化させる</u> ・周辺の事情を考慮した魅力の提供や連携事業が少ない。

【周辺との連携（マネジメント体制）】

委員意見	検討会資料～課題～
（第3回）周辺エリアも含めて活性化させる ・中島公園の魅力アッププラン策定にあたって、地域の方とどうコミュニケーションをとり、まちづくりの動きとどう連動させていくのか考える必要がある。周辺地域が入った時にエリアマネジメントは求められるのかどうか。 ・周辺事業者の積極的な活用が見られないということだが、ヒアリング結果からどういう理由で活用に至っていないのか深掘するとよいのでは。考察の中で専用窓口などの提案があるが、初動は行政でプロモーションをかけていかないと周辺事業者も公園を使おうという発想にはならないと思う。ある程度軌道に乗ってくれば窓口になる。受け身の想定な印象を受けたが、最初仕掛けていくということもどこまで具体的にできるかということはあるが、視野に入れていくべき。指定管理者の創造的な活用について、西東京市のように、市民のコーディネート業務を指定管理業務の中にビルドインして行っているところもある。コーディネートにはある程度専門的なノウハウが必要なので、予算の関係もあるとは思いますが、体制づくりをやっていかないと進まないと感じる。札幌市も社会実験を積み重ねるケースが多いと思うが、公園と周辺事業者の連携方法についても成功事例がないと民間事業者は入りにくい。中島公園の資源を最大限発揮できるイベント等、わかりやすいところで先行事例を積み上げることがまず一つ重要なこと。 ・公園利用のマップ等の紹介はあるが、この公園の一番の特徴は、公園の中に様々な種類の公共施設が建っている、あるいは公園周辺に建っている、建とうとしている。そういう時に公園はどんな役割を担うのか、そのマネジメントはどうするのかはテーマ。そのやり方や方向性の議論になると思う。組織を作る必要があるのかという議論になった時に、主体も目的も違う公共施設を一つにまとめ、コントロールするのが公園側のマネジメント主体と言えるのか。武蔵野プレイスの話とその横の境南ふれあい広場公園。駅前の土地の一部分を、図書館を主体とした公共施設とし、残ったオープンスペースを公園化して、一体的に指定管理を出している。それによって公園と公共施設での各アクティビティを連動させることができ、天気の良い日に屋内でWS、外では絵本の読み聞かせ等、様々なアイデアが生まれる。武蔵野市は、公共施設マネジメントに対して非常に取組が盛んな市。何を作るにも市民と連動して行い、市民力がある。計画段階から揉めることも多いが、出来上がるものはすごく良い。それを考えると現状の中島公園では、イニシアティブをとれる人や組織はあるのか。ないのなら、どういうやり方があるかという話になる。MICEのコンテンツにも公園との関係性の話は必ず出てくるので、話を具体化するにはもう少しそこをイメージしながら、考えられる組織体やその時に課題になることなどを議論していく方が良い。 ・誰がリーダーを取るかという話もあったが、公園がリーダーとした場合、中島公園の持っている資源や歴史を失わない範囲でそれぞれどう連携をとるかも重要。個人的な意見だが、MICEについても、公園と連携を取っていくことを考えた時に、お互いにとって良いものになるようにこんな形になって欲しいという中島公園側からの提案もあると思う。	（第1回）今あるみどりや芸術・文化を磨き高める ・各施設がバリエーション豊かな活動をおこなっているが、連携しての事業は少ない ・目的以外の施設を訪れるきっかけとなる事業が少ない ・連携できる事業アイデアはあるものの、実施することが出来ていない ・中島公園地域コミュニティ推進協議会が十分に機能を発揮していない （第3回）周辺エリアも含めて活性化させる ・ホテルからの公園の景観を活用している事例はあるものの、周辺事業者による公園の積極的活用は見られない。 ・公園と周辺事業者との関係は情報共有程度であり、関わりが希薄である。 ・周辺の事情を考慮した魅力の提供や連携事業が少ない。 ・公園と周辺事業者が活かし活かされる関係となっていない。

【周辺との連携（公園利用の制限）】

委員意見	検討会資料～課題～
（第 3 回）周辺エリアも含めて活性化させる ・自由広場のような制限を設けない区域を増やすかということは、現状としてスペースが足りないなら必要だが、今日の説明を聞いた限りでは、自由広場が人気で民間事業者の利用希望が溢れている状況ではないと思うので、別の視点だと感じた。自由広場の活用について、「物販はほかの公園と同様に制限あり」の「物販」の解釈が気になった。周辺事業者位置図からはカフェや物販が多いと読み取れるが、出店をやるときは興業なのか物販の扱いなのか、それで制限がかかっているのなら、何かしら柔軟に認める余地も検討が必要かと感じた。 ・自由広場での物販について、入場料はとれるが、販売には制限がある。事業者がすぐにはできる状態ではなく、指定管理者の自主事業の中でやらざるを得ない状況。仰る通り柔軟な対応を検討していく必要がある。	

【周辺との連携（MICE 施設）】

委員意見	検討会資料～課題～
（第 2 回）新たな機能により魅力を向上する ・全国の MICE 関係者のフォーラムを開催するのだが、ウエルカムパーティーを札幌らしいところと考えたが、100 人ちょっとの規模でできる場所がない。ホテルではせっかく札幌に来ていただいたのにといいところがある。札幌らしい公園の景観を楽しんでもらう施設があると良い。アメリカの MICE 施設は、アリーナをバスケットボールの試合と併用し、大規模なコンベンションや展示会、商談会等を行っている。そういう施設が都心には必要。稼ぐ手段をもつパークマネジメントという観点でも MICE 施設は必要。 （第 3 回）周辺エリアも含めて活性化させる ・今回のテーマは周辺エリアも含めて活性化させるということだが、なぜ MICE が出てこないのか。MICE があることで今後公園も大きな影響を受ける。MICE は、公園とは隔離された単なるイベント施設で、公園は景観だけを楽しむ場所なのか。せっかくそういう機能が入るのであれば、もっと公園の中に影響を及ぼすような施設をその中に取り込めないか等、考えられることは色々ある。検討対象として MICE が全くないというのはおかしい。 ・一般論かもしれないが、MICE は新しい観光の形態であり、日本ではコンベンションとエキシビションがメイン。一方、ヨーロッパ等ではミーティング（M）とインセンティブツアー（I）に力を入れている。ミーティングルームは中島公園周辺の既存ホテルにもあるが、もう少し日常利用が可能な、ミーティングスペースでなど特別な体験、暮らしや文化の体験といった、ここからできるインセンティブツアーも考えられる。札幌で会議をしたいが、どこに行けばいいかわからないからツアーを作って欲しいという声は多く、さらにそこに中島公園も含めたインセンティブツアーを組んでほしいという声もある。そういうニーズにこの公園がどう応えられるか。MICE を介さなくても、M と I に関しては貢献できるのでは。そこにコンベンションやエキシビションのような施設ができれば、さらに拡大するかもしれないくらいのストーリーで良い。	

【周辺との連携（エリアマネジメント）】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>（第2回）新たな機能により魅力を向上する</u> ・中島公園はパークマネジメントができると良いと思っていたが、周辺地域が入った時にエリアマネジメントは求められるのかどうか。どちらが良いのか悩ましい。基本構想を実現していく際には、エリマネの組織をつくることは想定しているのか。 <u>（第3回）周辺エリアも含めて活性化させる</u> ・周辺事業者の活用が進まない理由などは聞いたか。そこを深掘していただければと思う。ここを誰がマネジメントするかはかなり重要な話。指定管理者への現在の業務の出し方では、今議論されている話や周辺事業者との連携についてはカバーできない。現状として協議会があり、公園周辺施設も構成員になっているが、それに対して事業者はもっと多い。すすきの話もあったが、すすきの観光協会は中島公園の議論の際に入れなくて良いのかとか、MICEの話が具体化しないので難しいかもしれないが、それも考えることの一つ。指定管理者の自主事業の範囲にも限界があり、ある公園では市民団体の活動を活性化させようと公園設計の段階からそのための施設を計画したが、結局、指定管理者の業務時間等の関係で、市民活動には使えていないという事例がある。中島公園では、もっと思い切った指定管理者との関係の作り方を考えていくべき。中島公園周辺のまちづくりに、本当に必要な人たちが含まれているのか。MICEは具体化しなくとも、町内会だけでなく周辺事業者も上手く入れていかないと、市民の日常利用と観光客を受け入れた時の利用のバランスをとるといいう議論もできない。エリアマネジメントみたいな発想も必要。 ・周辺を考えるとパークマネジメントがエリアマネジメントに発展していくが、エリマネ体制を作る入口が公園からという事例は少なく難しい。	<u>（第1回）今あるみどりや芸術・文化を磨き高める</u> ・各施設がバリエーション豊かな活動をおこなっているが、連携しての事業は少ない ・目的以外の施設を訪れるきっかけとなる事業が少ない ・連携できる事業アイデアはあるものの、実施することが出来ていない ・中島公園地域コミュニティ推進協議会が十分に機能を発揮していない <u>（第3回）周辺エリアも含めて活性化させる</u> ・ホテルからの公園の景観を活用している事例はあるものの、周辺事業者による公園の積極的活用は見られない。 ・公園と周辺事業者との関係は情報共有程度であり、関わりが希薄である。 ・周辺の事情を考慮した魅力の提供や連携事業が少ない。 ・公園と周辺事業者が活かし活かされる関係となっていない。

【市民参加・ボランティア】

委員意見	検討会資料～課題～
<u>（第2回）新たな機能により魅力を向上する</u> ・管理に新しい形態で市民や子供が関わるのも良い。 <u>（第3回）周辺エリアも含めて活性化させる</u> ・指定管理者からの連携アイデアについて、清掃活動や公園全体を知る機会等、身近に市民との関わりが目で見えるような場は、確かに現状の中島公園ではあまりない。清掃活動など管理に市民も入れるのは面白い取組。今は管理しているところを使わせてもらっている感じがあるが、日常管理の中に市民ボランティアが入ってくると変わるのかなという印象を受けた。 ・地域の方々に参加してもらいながらもっと魅力的にしようという活動が、公園をマネジメントするときにあった方が良い。 ・情報発信について、多世代の人たちが参加できるWSなどを開き、どう発信したらよいのか議論できる場があると良い。市で整理し、仕掛けを作っていく必要がある。こういう議論をするときに男性が多くなりがちなので、多様な人から声を出してもらうことが大事。老若男女、外国人や障がいのある方等からしっかり声を出してもらえるような組織作りが大事。	